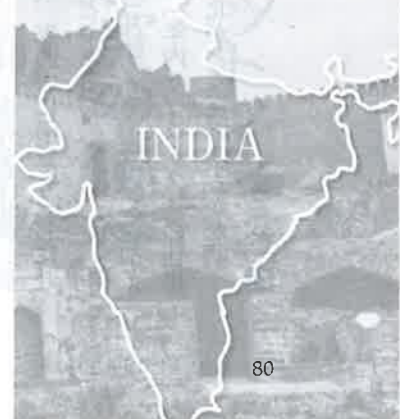


# 加熱する中国との関係悪化 自立という名の下の政策不況

インド・ビジネス・センター代表 島田 卓



再選を支援した中国製アプリ  
TikTokまで使用禁止に

今から六五年前の一九五五年、インドネシアのバンドンで民族自決などを訴えたアジア・アフリカ会議が開かれた。通称「バンドン会議」と言われるものだ。同会議を率いたのは、スカルノ・インドネシア大統領、周恩来中国首相、そしてインドのネルー首相だった。その前年、「ヒンディ・チニ・バイ・バイ（中国とインドは兄弟）を掲げ、その密接な関係を誇示した中印首相は「平和五原則（①領土と主権の尊重、②相互不可侵、③内政不干渉、④平等互惠、⑤平和共存）」を唱え、それを基に「バンドン一〇原則（基本的人権や国連憲章の尊重、全人類とすべての国の平

等の希求等）」が宣言された。しかし、バンドン会議からわずか四年後の一九五九年、チベットのダライ・ラマ一四世がインドに亡命し、チベット亡命政府を樹立すると中印関係は一挙に険悪になり、一九六二年には国境をめぐる中印紛争が勃発する。中国の軍事力を過少評価したネルーが完敗した。ネルーは一年半後、失意のうち世を去った。

それから六〇年近く経った今年六月中旬、国境問題に絡む北部ラダック地方で両国軍が衝突、インド兵士二〇人が死亡したと大きく報道された。これに対し、元インド陸軍大將で現在はモディ首相の下で国務大臣を務めるV・K・シンは、まるでその報道に対抗するようにインド地元紙に、中国兵士

の死者は四〇人以上と言いつつ

インドの好戦的愛国主義者たちは、中国製品をボイコットし、経済的関係を断つと叫び、パキスタンを空爆したように中国にもインドの強さを教えてやれと息巻く。一部のマスコミがこれを煽り、野党第一党の前総裁ラフル・ガンデイーに至っては、「モディの実態はサレンダー（Surrender…中国にしっぽを巻く）モディだ」とこき下ろしている。

これに反応したのか、モディは衝突からまだ半月ほどしか経っていない七月三日、ラダックを電撃訪問。負傷した兵士を見舞い「あなた方はインドの誇りだ」と持ち上げ、「インド軍はどの国よりも強大で優れている」と拳を振り上げ、「軍に必要な措置を取る自



ナレンドラモディ首相

る。

インド政府は六月二十九日、動画投稿アプリ「TikTok」など、

主として中国企業が提供する五九のアプリの使用禁止を発表した。中国と貿易戦争真っ最中の米国のポンペオ国務長官は二日後の七月一日、記者会見の席上で同決定を歓迎すると発言。六日のFOXニュースのインタビューで、米国内でのTikTok利用禁止を検討していることを明らかにした。

しかし、皮肉なことに昨年五月の総選挙で、旗色が悪かったモディを支えたのが、インドで月間一億二〇〇〇万人ものユーザーがいるTikTokだった。ソーシャルメディアに精通した若者によるチームを組成、デジタル戦に打って出た。初めて選挙権を得た約一五〇〇万人の若者をはじめ、デジタル世代に「モディ・ウエーブ」を作り出し、一八歳～二二歳の党別得票率では与党インド人民党（BJP）が四一割を獲得。野党第一党国民会議派の二〇割とはダブルスコアを記録した。

## 経済依存する中国を切れるのか コロナ感染者は世界三位に

しかし、振り上げた拳は止まらない。信じられないことに、七月三日、R・K・シン電力大臣は「中国製電力関連機材の輸入を禁じる」と発表した。世界最悪の大気汚染国のインドは、脱炭素化のため再生可能エネルギーへのシフトを試みてきた。だが、ソーラーパネルや蓄電池製造に使う部材は中国に依存している。それらを自国生産に切り替えることなど一朝一夕にできるものではない。

また、インドはジェネリック医薬品のメッカ的存在だが、それに必要な原薬（API）は中国からの輸入が七割程度を占めている。今回のコロナ騒動で中国からのAPI輸入が止まったことで、輸出先の欧州諸国の医薬品業界が混乱したことなどを見れば、中国との経済関係を切るなどと言うことは、まったくもって非現実的だ。

最近モディは「ことあるごとにSelf Reliant（自

立）」という言葉を多用する。国民を鼓舞するためのまやかし、スタンドプレーだが、モディを妄信する人たちはそれを真に受けている。

中国との国境紛争の間にもインドの新型コロナウイルス感染者の数は増加し、七月六日には累計で六九万人を超えた。ロシアを抜き、米国、ブラジルについて世界第三位になった。一日当たりの新規感染者数は二万人を超えており、その数値すらどこまで検査をしているのかは定かでない。また、インド最高裁は首都を抱えるデリー準州政府に対し、感染者や死者の取り扱いが見るに見かねるとして、考え得る限りの激しい言葉を使い糾弾している。判事の一人は、遺体のごみ捨て場で見つかったことに激怒し「もはや人間としての尊厳は欠片もなく、動物以下だ」と唾棄する。

モディは三月下旬から五月末までロックダウンを実施したが、経済的打撃には耐えかねて、六月に入ると段階的に解除を実施している。しかしその間の経済的ダメージ

ジには想像を絶する。

インド自動車市場の約五割のシェアを持つマルチ・スズキの四月の販売台数は「ゼロ」となった。S&Pグローバルレーティングは六月末に「インド経済は最悪の状態」と発表、今年度の経済成長はマイナス五割と予測する。そのうえで、デフレスパイラルに陥るリスクを指摘している。加えて、農作物を食い荒らすサバクトビバッタの大群が西部ラジャスタン州を襲い、六月には首都ニューデリー近郊にまで到達している。国連食糧農業機関（FAO）によれば、このバッタは一日最大一三〇キロメートルを移動し、三万五〇〇〇人分の農作物被害を生むという。

中国との国境紛争に端を発した商流の遮断、新型コロナ禍による民心の疲弊と経済的ダメージ、バッタによる農作物被害。

巧みな演説で「この苦境は乗り越えられる」と説くモディ。そのモディを妄信する数多のヒンドゥー教徒。この蜜月がいつまで続くのか、保証はない。（敬称略）